

平成21年度 第3回
大阪府・大阪市経済動向報告会
第1部：最近の大阪経済の動向 資料
『混沌とした大阪経済を俯瞰する』

平成21年10月27日

財団法人大阪市都市型産業振興センター
経済調査室長 徳田 裕平



【本日の話題】

- ☆ この2年の景気認識を振り返る
- ☆ 景気動向データが語るトレンドから読み取る
- ☆ 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する
- ☆ 不況からの脱却の道筋はいかに

■ 1 この2年の景気動向を振り返る 各種機関での業況総括判断推移の比較

| 年月 | 【内閣府】 | 【近畿（日経大阪支店）】 | 【大阪市】 | 【経済調査室のフェーズ】 | 年月 | |
|--------|---|---------------------------------------|---|--|---|-------|
| 07年10月 | このところ一部に弱さが見られるものの、 回復している | 緩やかに 拡大している | 「年末需要で業況は盛り返すも、『 踊り場 』の様相が強まる」 | <フェーズⅠ> 金融バブル崩壊の兆候現れるも大事に至らない 渡り期 | 07年10月 | |
| 11月 | | | | | | 11月 |
| 12月 | 一部に弱さが見られるものの、 回復している | | | | | 12月 |
| 08年1月 | このところ 回復 が緩やかになっている | | | | 「経済環境急変に伴う 新たな均衡 へ向けた調整過程が進行」 | 08年1月 |
| 2月 | | | | ・ 異次元の世界へワープするトンネルに突入 | 2月 | |
| 3月 | 景気回復は、このところ足踏み状態にある | | 一部に減速の動きがみられるが、基調としては緩やかに 拡大している | 「コストプッシュにより一部の企業で価格転嫁が進展」 | <フェーズⅡ> 金融バブル崩壊が 最悪 し、投機マネーが世界を襲った 激震期 | 3月 |
| 4月 | | | | | | 4月 |
| 5月 | 景気回復は足踏み状態にあるが、このところ一部に弱い動きがみられる | | | | | 5月 |
| 6月 | | | | | | 6月 |
| 7月 | | | | 「内外需の弱さと原油価格の反落で 方向感が定まらない不安定状態 」 | | 7月 |
| 8月 | | | 減速している | | | 8月 |
| 9月 | このところ、弱含んでいる | | | | | 9月 |
| 10月 | 弱まっている | 停滞している | | | 10月 | |
| 11月 | 弱まっている ・・・下押し圧力が急速に高まっている | 停滞している | 「需要の急激な縮退により大企業中心に業況等が 急降下 」 | <フェーズⅢ> 外需依存型の日本の実体経済が急激に 最悪 期 | 11月 | |
| 12月 | 悪化している | 停滞色を強めている | エアポケット的に | | 12月 | |
| 09年1月 | 急速に 悪化している | 悪化している | 「景気悪化は業種・規模を問わず 急拡大 」 | | 09年1月 | |
| 2月 | 急速な 悪化 が続いており、厳しい状況にある | 大幅に 悪化している | ・ 総崩れ | | 2月 | |
| 3月 | | | | | 3月 | |
| 4月 | 厳しい状況にあるものの、このところ 悪化 のテンポが緩やかになっている | 大幅に 悪化 しており、厳しい状況にある | 「景気は底入れの兆候が見られるものの、 依然厳しい水準 」 | <フェーズⅣ> 緊急経済対策の効果が徐々に現れるも、 景況が不透明な底入れ期 | 4月 | |
| 5月 | | | | | 5月 | |
| 6月 | 厳しい状況にあるものの、一部に 持ち直し の動きがみられる | 厳しい状況にあるが、 悪化 のテンポは和らいできている | | | 6月 | |
| 7月 | 厳しい状況にあるものの、このところ 持ち直し の動きがみられる | なお厳しい状況にあるが、 下げ止まりつつある | 「景気は下げ止まりつつあるものの、 なお厳しい水準 」 | | 7月 | |
| 8月 | | | | 8月 | | |
| 9月 | 失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ 持ち直し の動きがみられる | なお厳しい状況にあるが、 下げ止まっている | | | 9月 | |
| 10月 | 景気は 持ち直し してきているが、自排性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある | 雇用面などに厳しさを残しつつも、 持ち直し の動きがみられる | | | | |

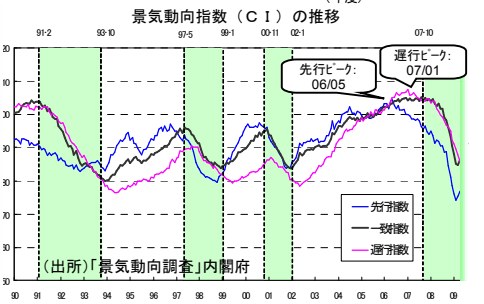
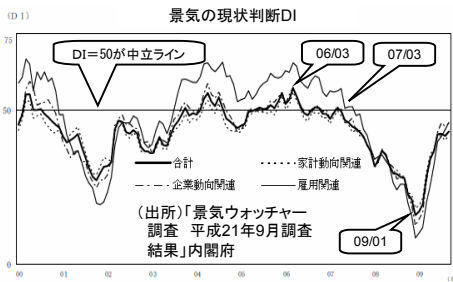
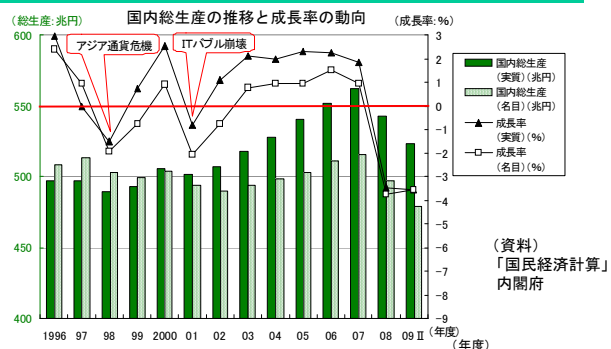
目指すべきフェーズⅤ:
潜在需要に応える新たな**社会構築**に向けた**革新的スパイラル期**

回避すべきフェーズⅤ:
有効需要が見出せず、**倒産増、失業者増に陥る不況スパイラル期**

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

■ 2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

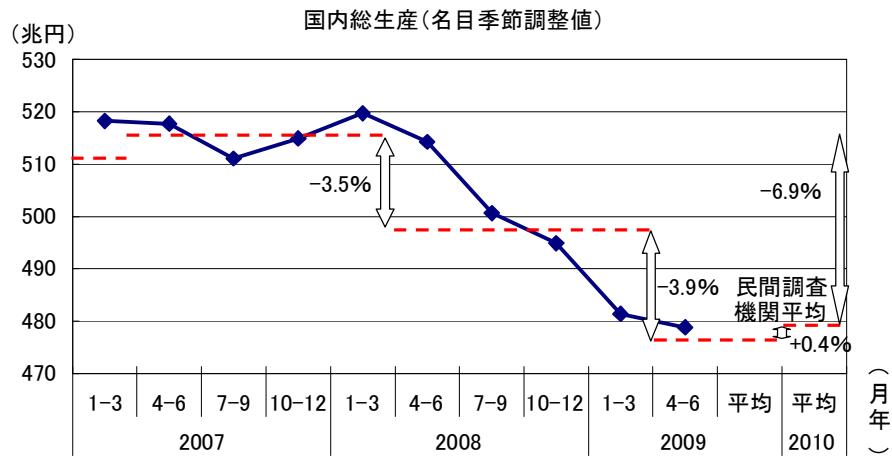
(1) 2007年度までは**本当に経済は成長していたのか?**
実質経済成長率は本当に正しい見方なのか?



(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

(2) 全国の名目GDP（季節調整値）の推移と調査機関の経済予測

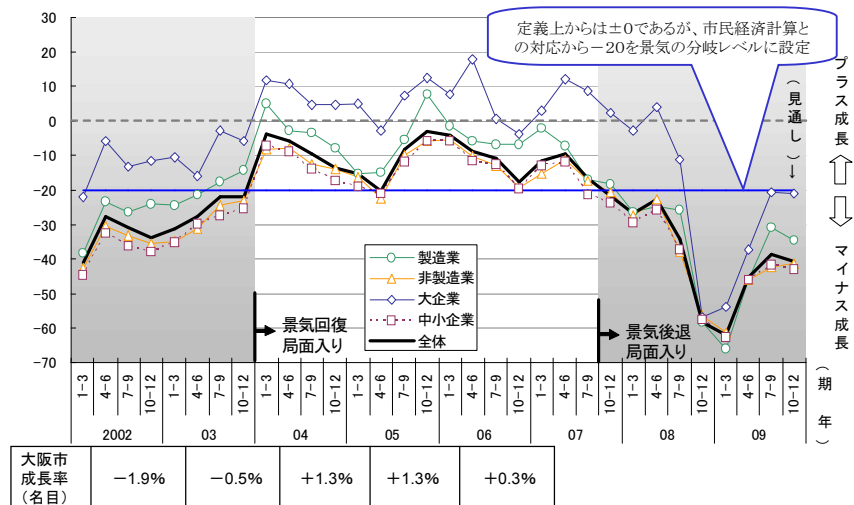


(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

(3) 季節調整後の対前期比景況判断

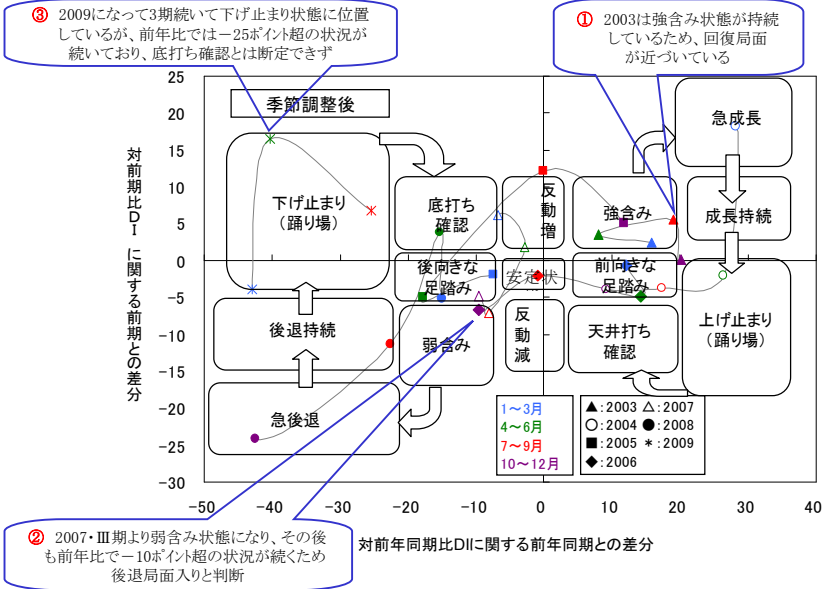
(注) 季節調整方法については経済調査室のHPに掲載



(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

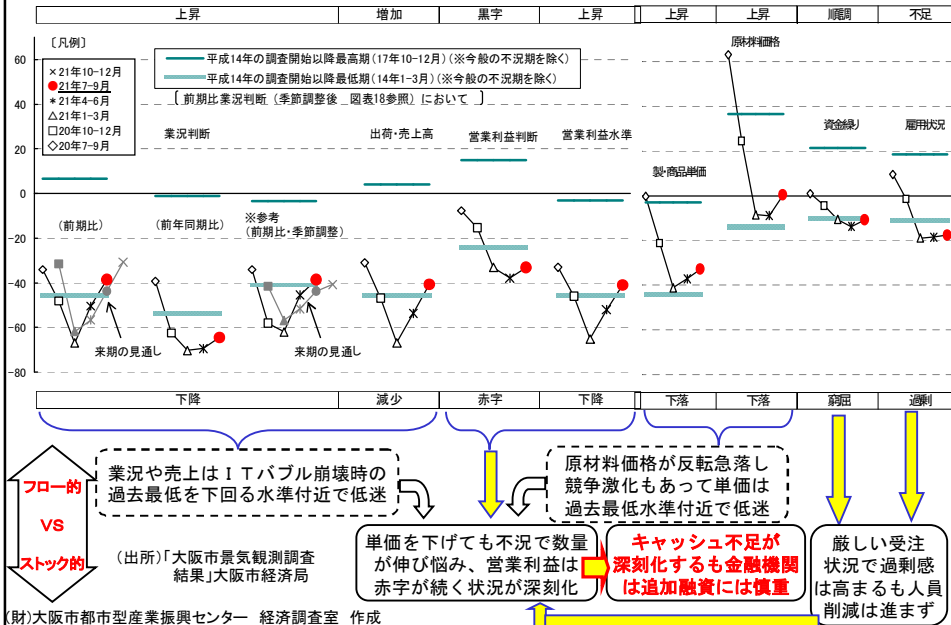
(4) 前年同期比と前期比を組み合わせた「景気動向クロス判定による現状評価」



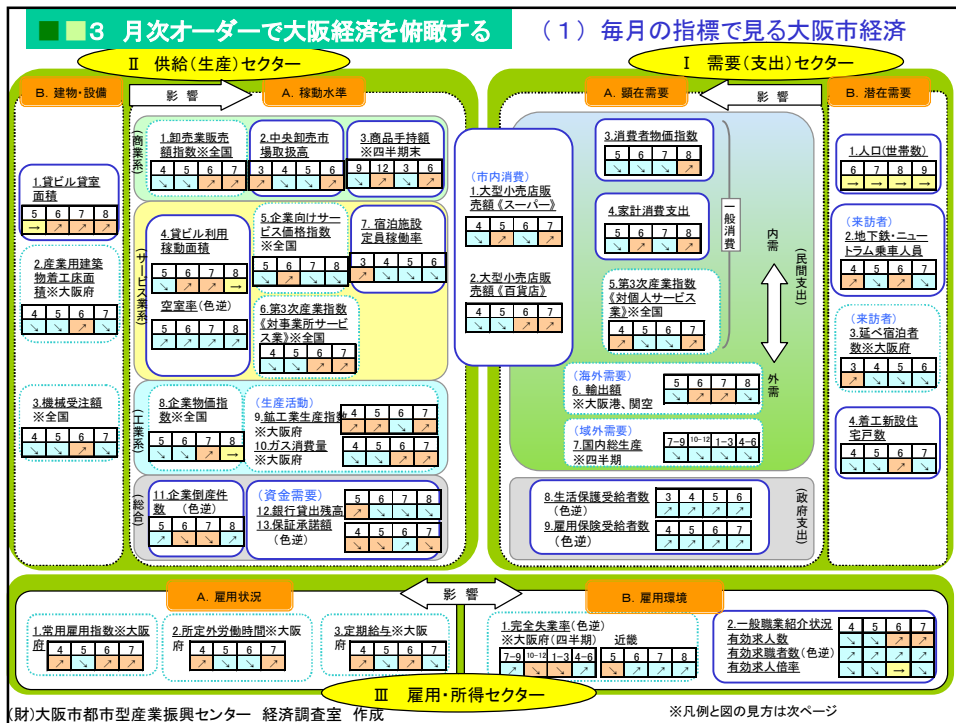
(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

2 景気動向データが語るトレンドから読み取る

(5) 大阪市企業アンケートからみる主要指標のDIIの変化 (平成20年7-9月~21年7-9月)



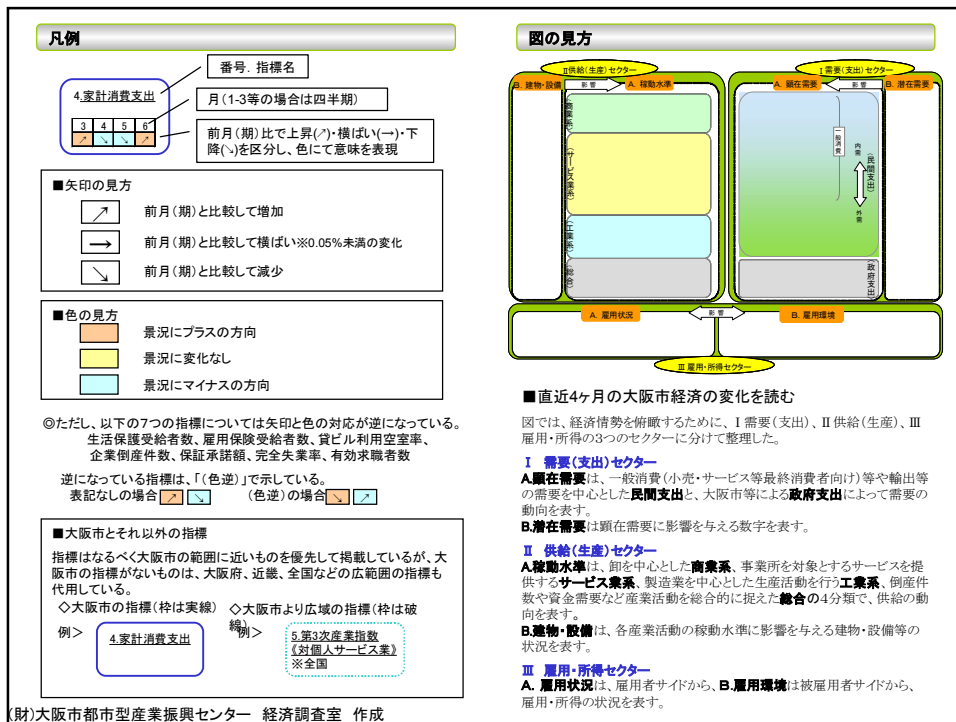
(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成



(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

※凡例と図の見方は次ページ

8



■ ■ 3 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する (2) 大阪市経済の動向 (2009年9月)

■ 景気は下げ止まりつつあるものの、回復力は弱く、雇用環境の厳しさは改善されず

需要面では、家計消費や消費者物価などに回復の兆しが見られるが、逆に回復傾向にあった輸出増加が一服するなど、動きは一定しない。供給面も安定感に欠け、大阪府の鉱工業生産は上昇したものの、市内企業の倒産が増加するなど、景気回復への広がりや力強さに欠ける。雇用面では、求人数が微増したものの、求人倍率はわずかに低下し、雇用環境の改善には至っていない。

II 供給(生産)セクター

【A. 顕在需要】

- ◇ **一般消費** 大型小売店の販売額(7月)は増加、家計消費も増加(8月)。8月の消費者物価は若干の上昇。
- ◇ **輸出等の外需** 輸出(8月)は、大阪港では増加傾向にあるものの、関空では減少に転じたため、合計では減少へ。
- ◇ **政府支出** 生活保護、雇用保険ともに受給者数の増加がさらに著しくなっている。

【B. 潜在需要】

人口・世帯数は概ね横ばいながら、着実に微増。着工新設住宅戸数(7月)は減少し、より厳しい水準で低迷。新型インフルエンザの影響で宿泊数は激減。

I 需要(支出)セクター

【A. 稼働水準】

- ◇ **商業系** 全国の卸売業販売額(7月)は微増に留まり、低水準。
- ◇ **サービス業系** 貸ビル賃料の下落はいったん落ち着いたものの、空室率は上昇中。全国のサービス価格(8月)は下落、対事業所サービス業指数(7月)の増加は鈍化し、低調。新型インフルエンザの影響等でホテルも低稼働率。
- ◇ **工業系** 大阪府の鉱工業生産(7月)はわずかに上昇するも、一進一退。
- ◇ **総合** 倒産件数(8月)は3ヶ月ぶりに増加。銀行貸出(8月)は緩やかな減少傾向で、保証承諾額(7月)も減少し、世界金融危機以前の落ち着きを取り戻しつつある。

【B. 建物・設備】

貸ビル延床面積(8月)は引き続き増加し、大阪府の着工建築物(7月)は大幅減少。

III 雇用・所得セクター

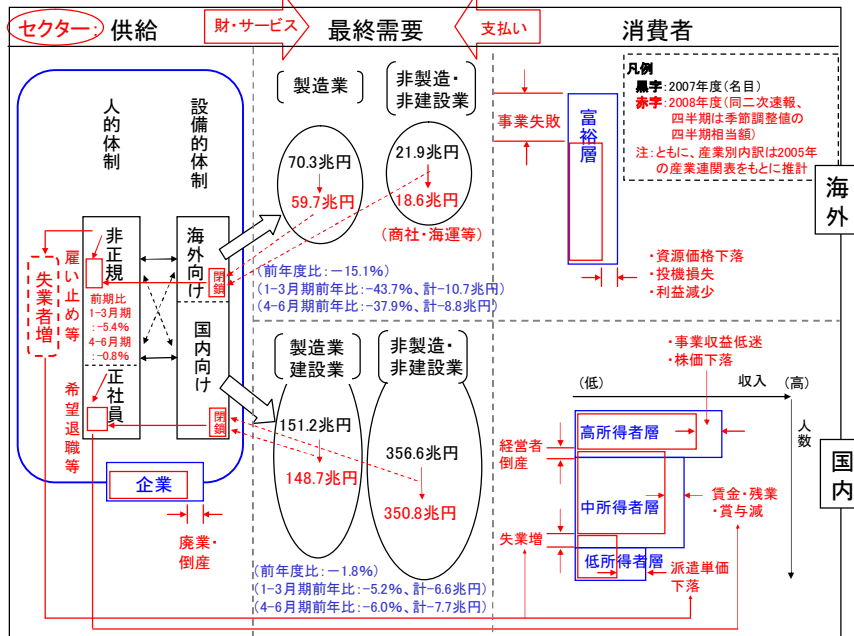
【A. 雇用状況】 大阪府下では、常用雇用や残業(7月)は若干回復するも、定期給与は微減(7月)。

【B. 雇用環境】 求人数(7月)は若干の増加が見られるが、求職者数(7月)の増加がそれを上回り、需給バランスは悪化しており、求人倍率(7月)はさらに低下。

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

10

■ ■ 4 不況からの脱却の道筋はいかに (1) 最近の不況の構造と需要量の変化



(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

11

4 不況からの脱却の道筋はいかに

(2) 想定される(元請け)企業の経営改善努力

< 好況期 > → < 不況期 (需要急縮期) >

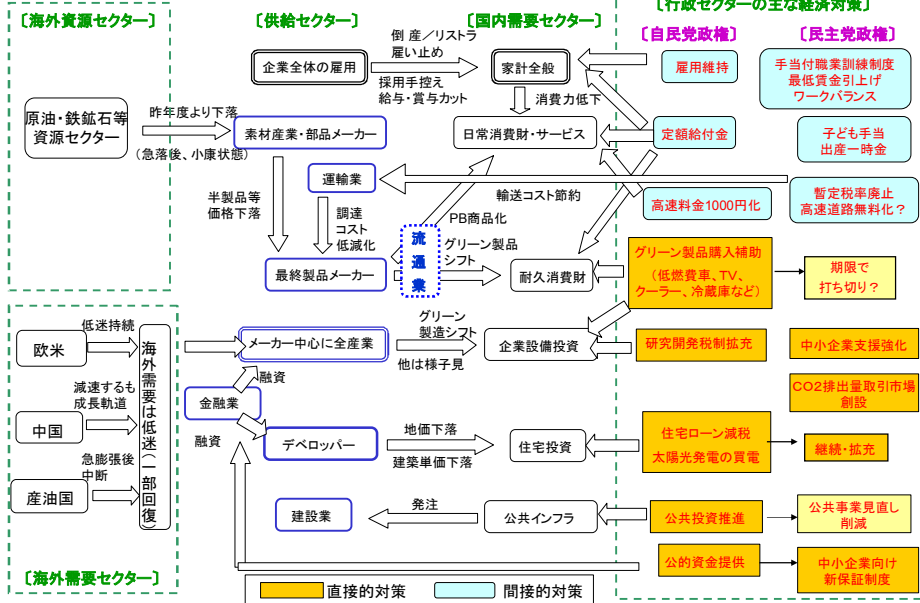
| 受注額 | 営業損益 | 外部支払費 | 対策例 | |
|--------------|-----------|-----------------------------|---|---|
| | | | 好況期 | 不況期 (需要急縮期) |
| 営業損益 | 商品仕入原価 | 外部支払費 | ①原価・委託費低減要請 | ・納入・下請企業の受注額減少 ⇒ 利益圧迫 |
| | 材料費 | | ②一括調達方式への変更 | ・納入・下請 ⇒ 選別漏れ企業 ⇒ 廃業 企業の選別の受注急減 |
| | 外注費 | | ③海外調達への変更 | ・納入・下請企業の受注額急減 ⇒ 廃業 |
| | 労務費 | | ④PB商品への代替促進 | ・広告関連産業の受注額減少 |
| | 減価償却費 | | ⑤粗悪材料等での代替 | ・高品質材料納入企業の受注額減少 |
| | その他(交通費等) | | ⑥内製化による業務量確保 | ・下請企業の受注額急減 ⇒ 廃業 |
| | 販売管理費 | 人件費 | ・パート、派遣等のリストラ ・正社員の給与・賞与カット | ・失業者増加 ⇒ 個人消費 ⇒ 社会保障費増加 ・社員の収入減少 ⇒ の冷え込み |
| | | 減価償却費 | ・工場・事業所の縮小・閉鎖 ・新規機種等への代替延期 | ・大量失業者発生 ⇒ 個人消費 ↓ ⇒ 社会保障費 ↑ ・設備投資関連産業の受注額減少 |
| | | 地代家賃 | ・出張費等の節約 | ・ホテル・タクシー業界、旅行業等の売上減少 |
| | | 運賃荷造費 | ・パート、派遣等のリストラ ・正社員の給与・賞与カット | ・失業者増加 ⇒ 個人消費 ⇒ 社会保障費増加 ・社員の収入減少 ⇒ 個人消費の冷え込み |
| 広告宣伝費 | | ・本社等売却・賃貸へ移転 ・営業所等の拠点集約化 | ・不動産業のビジネスチャンス増加 ・貸しビル業の空室率上昇 ⇒ 利益圧迫 | |
| 営業外費用(支払利息等) | 交際費 | ・物流コスト低減要請 | ・物流業者の受注額減少 ⇒ 利益圧迫 | |
| | その他 | ・広告宣伝費の抑制 | ・広告関連産業の受注額減少 | |
| | 営業外収益 | ・交際費の抑制 | ・飲食街の売上減少 | |
| | 営業外利益 | ・教育研修費の抑制 | ・社員教育関連産業の受注額減少 ⇒ 利益圧迫 | |
| 営業外利益 | | ・有利子負債の圧縮 | ・納入企業の売掛金回収遅れ、手形サイト長期化 | |

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

12

4 不況からの脱却の道筋はいかに

(2) 最近の経済情勢と政府の追加経済対策



(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

13